

市民フォト

No.15

昭和58年12月1日発行

スクラム、パス… 同じ練習を何回も繰り返す。子供たちの表情が少しゆがみかたがた。思わず声をかける「頑張れ」。いよいよラグビーシーズンの到来です。人物は鹿児島少年ラグビースクールの子どもたちとコーチの熊谷勝行さん(右)、是枝満さん。

鹿児島



私の作品



もくじ

私の作品	2
特集・天文館界わい	3
のびのび、ヤング	4 ~ 5
娯楽と酔いと	6
ひっそり閑	7
わが青春の街「てんもんかん」	8 ~ 9
人物登場(加茂幸介さん)	10 ~ 11
ぼくらの施設めぐり(福祉コミュニティセンター)	12 ~ 15
飛んで22年・下伊敷(日当平付近)	16 ~ 17
市民のひろば	18 ~ 20
奥さまこんには(佐藤ヤス子)	21
あなたのフォトサロン	
ママさん、大ハッスル	22 ~ 23
平川動物公園	24 ~ 25
わたしの散歩道(帯迫〜雀ヶ宮)	26 ~ 27
カメラトピックス	28 ~ 29
あの店この店(中村楽器店)	30
市立美術館(少女)	31

あすれちつく

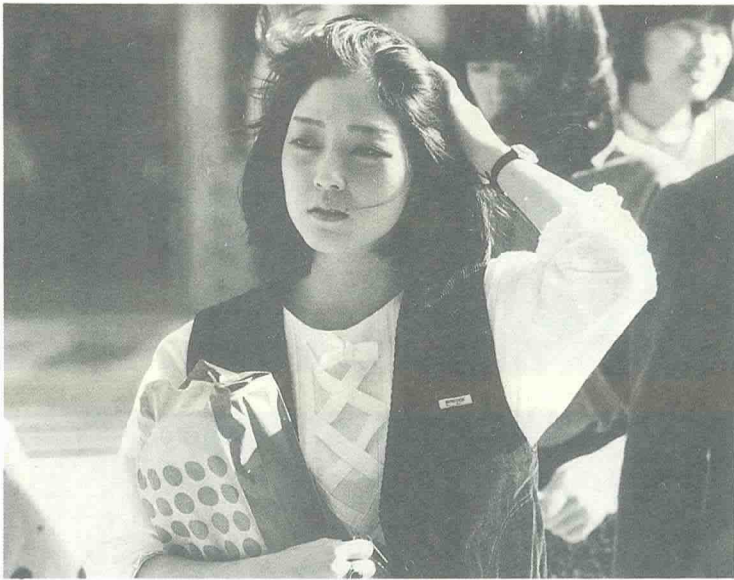
玉江小学校二年 法福 宏美

わたしは、やすみじかに、田なかさんたちとあすれちつくであそびました。たいやをよいしょ、よいしょとのぼりました。そらに

しろいくもがありました。すべりだいをすべるとき、こすもすがみえました。しろやぴんくのはながとてもきれいでした。

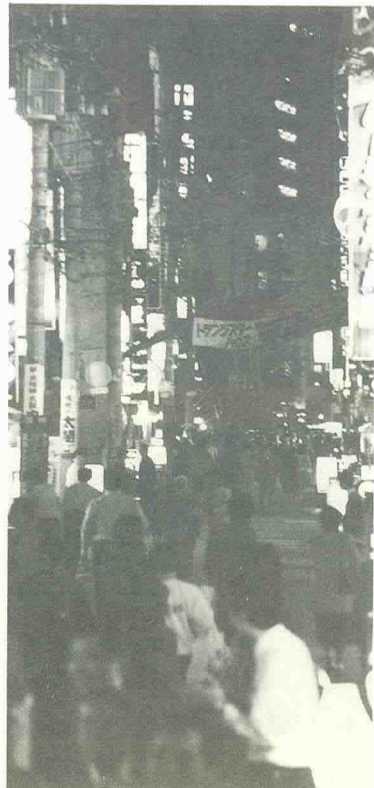
特集

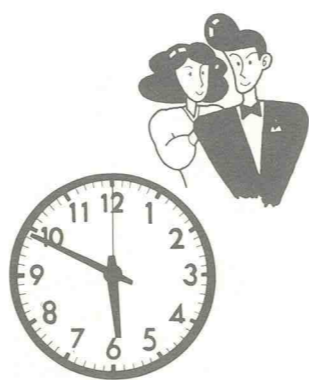
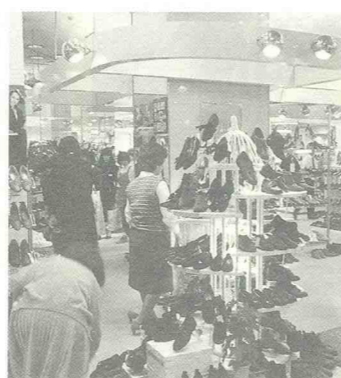
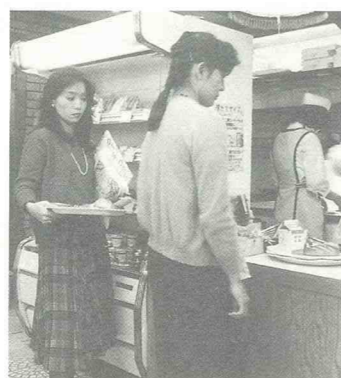
天文館界わい



市内随一の繁華街、天文館「界わい」。盛り場は魅力にあふれ、人びとの心を引きつける。昼、そして、夜——舞台を得て、誰もが活気に満ち、華やいでみえる。明け方——街は一時静寂を取り戻す。

今回は、表通りで、あるいは横丁でとらえた、さまざまな光景を特集してみました。





のびのび、ヤング。

昼—とりどりのファッション
が交差点を急ぎ足で行き交う。シ
ョッピングや天ブラのヤングも多
い。しばしのやすらぎと楽しさを

求めて...
夕暮れ時は恋人たちの出番だ。
街角には、若者たちの明るい声
が弾む。

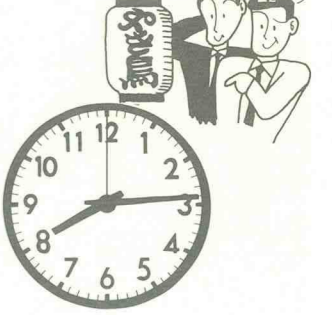
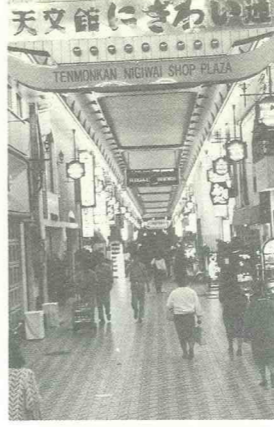
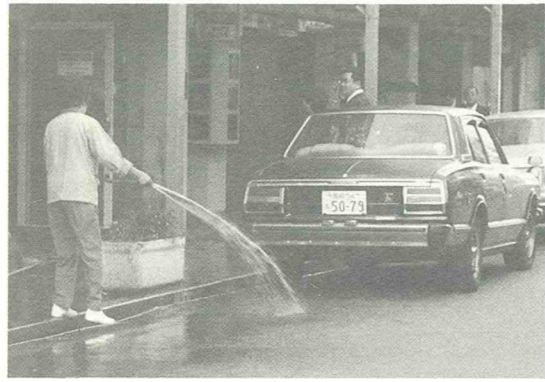




ひっそり閑。

この街の朝は遅い。ガラんとした通り、数時間前までの活気と喧騒がウソのよう。
兵どもがゆめの跡？ゴミの山は

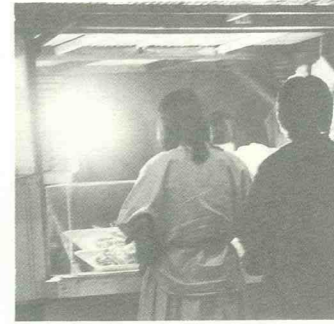
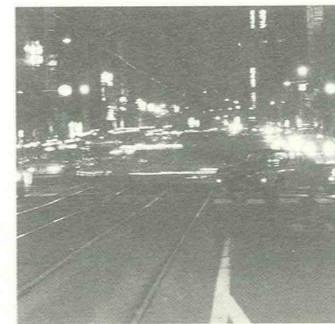
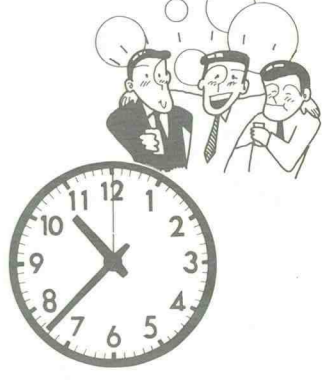
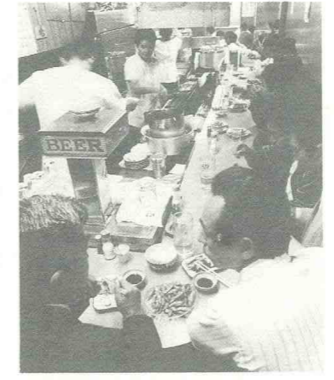
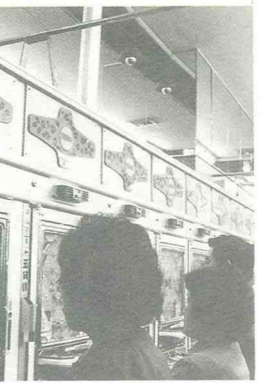
収集車がテキパキと運び去る。ほかに人目に触れぬ裏方さんは多い。そんな人びとの支えが街の美化や安全、発展には欠かせない。



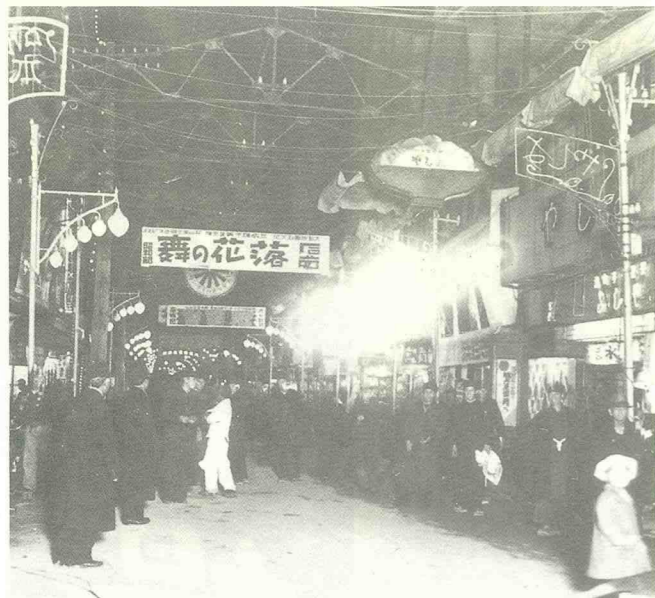
娯楽と酔いど。

表通りの明るさは昼とはまた一味違う。映画館はこの街に風情を添え、花屋も色どりを加える。
うるむネオンや赤ちようちん、酔

客の波。夜の更けるまで娯楽街はにぎわう。文字通り、不夜城。お地蔵さんも、みんなの幸せを祈っているようだ。



わが青春の街 てんもんかん



昭和11年…大衆食堂よしや、(現在の天文館モータープール。戦後の日東映劇付近)前で。当時の本田食堂(現在のTaka-Q付近)のネオンや新天地通りだけにあったモダンなずらん灯も見える。近くには昭和館や高島館も。



昭和11年～12年…喫茶コロムビア、(現在の蜂楽饅頭付近)の店内。当時、この辺りには喫茶店は大阪と2軒だった。紺と白のおそろいの服のウェイトレス。後方には当時、最新式の電気蓄音機が見える。



昭和11年…オペラハット、(ゲーリー・クーパー主演)を上映中の帝國館、(現在のスカラ座付近)の出入口。華やかだった活弁も、トーキー全盛時代となって姿を消していた。

大正七年五月五日吉田書房発行の
鹿兒島市街便覧図々から転載



「変わりましたねえ…」感慨深げな片岡さん。左端は天文館跡の碑、

映画やカフェー… よく出掛けたもんです。

片岡八郎さん(鹿兒島民俗学会会員)

私の青春時代?昭和十年、十一 電車賃六〜七銭でしたから…年の学生のころでしょうね。天文 映画は二十銭くらい。しよつ中館生まれつてこともあって、悪友 みてた。三本立てでね。「会議は踊るとよく出掛けたもんです。五十銭もあれば、結構一晩過ごした。ライスカレーが十五銭、コ 場」「伊豆の踊り子」などなど。一ヒート銭、夜なきうどん十銭、レコード屋の店先につるされた

その昔、 屋敷町だった… 天文館小史

明治時代、市内で最もにぎわっていたのは鹿兒島港付近の泉、汐見、住吉町界わいでした。そのころ、天文館一帯は中福良町という屋敷町。屋敷の広さが優に学校の敷地ほどもある大屋敷の長い塀が続き、人通りはまれ。地蔵角から先は、現在の南林寺町全域にわたる広大な南林寺墓地の一つの入り口でした。今、酔客でにぎわう千日町あたりは桶屋、葬儀屋鹿兒島郡役所などがあるだけで、あとは軒の低い家が並んでいたとい

います。天文館の名前の起りである天文観測のための明治館が建てられたのは二百年ほど前のこと、二十六代重豪公の時代です。その天文館に店舗が並び始めたのは明治三十二年、電機店や洋服屋などとともに寄席もたち、サイモン語りという浪曲などが催されていました。大正に入り、天文館通りと名づけられたところから急に活気を帯びます。電車の開通、山形屋の開業がこれに拍車をかけ、人びとの足は天文館へ…。

当時、流行し始めた弁士に楽隊入りの無声映画はたいへんな人気だったといえます。千日市場、天文館市場が建ったのもこのころで、食堂や裏横丁の小料理屋も一気に増え、今日のような商業・歓楽地の様相が一層濃くなりました。大正から昭和にかけてカフェーやピアホール、喫茶店も出現。赤い灯、青い灯のネオンのうるむ、時代の最先端をゆく街に…。

戦後、天文館はいち早く復興。世相を敏感に反映しつつ変せんし、商業・歓楽地区として発展を続けています。

人物登場

「晩秋の夕日に染まる桜島が限りなく好きだ」というロマンチスト。しかし、科学者としての冷静な目は、いつもとびきりまわっている。

●京都大学教授

同大学防災研究所付属桜島火山観測所長

加茂 幸介さん

中国・青島市に生まれ、引き揚げ 四十八年、教授。同年から同大防災後は京都府亀岡市で育つ。二十九年、研究所付属桜島火山観測所の第三代京都大学理学部地球物理学科卒業。 所長。鹿児島市坂元町に千枝子夫人三十四年、同大学大学院博士課程終了と母親のリクさんの三人暮らし。五了後、同大学助手。四十四年、同大 十三歳。理学部講師。同年、助教授に昇任。

活火山・桜島を見守る観測所で 陣頭指揮をとって十四年。 今後は後継者の育成を

袴腰の桜島フェリーターミナル

ちのときだつてありますよ。

から東へ徒歩で十分。そこに京都大学防災研究所付属桜島火山観測所はある。スタッフ十人。普通の職場と比べると、決して大所帯とはいえないが、それでも、日本では最大規模の火山観測所だという。四十四年以來もう十四年間、加茂さんは観測所長としてスタッフの陣頭指揮をとっている。

観測所の仕事は二十四時間態勢。宿直制で、夜間でも常に一人は活火山・桜島の動きを見守り続けている。群発地震など、ひとたび異常事態が発生すれば全員非常召集。所長宅に「呼び出し」がかかることも年に数回はあるという。

「観測所の仕事にカレンダーはあ

二年二月。京大大学院二年生のときで、故・吉川圭三教授らに同行、視察を行った。当時、桜島は噴火活動が活発化、視察も鹿児島県の依頼によるものだった。

りません。火山は人間の予定に合

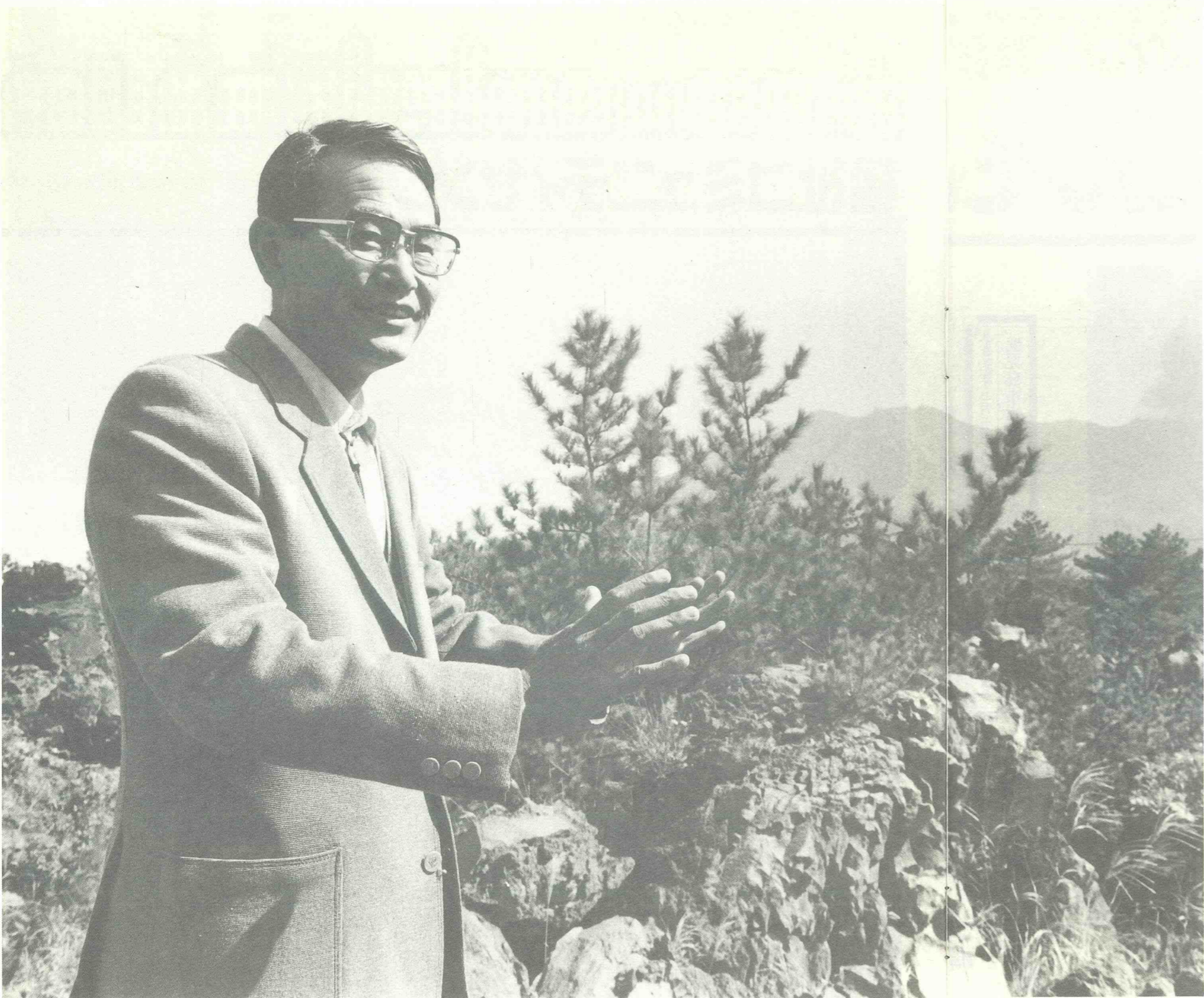
視察が行った。当時、桜島は噴火活動が活発化、視察も鹿児島県の依頼によるものだった。

「今回の噴火活動は長続きしそうだが、というのが結論だった。それでこの際、観測所を造っておくべきだと県に報告した」という。観測業務は、スタッフなどの面から京大に白羽の矢がたち、翌年から観測開始。三十七年に観測所の建物が完成した。

「最初に桜島を見たときは、やはり驚きました。初めて見た溶岩の流れた跡、まさに自然の脅威を感じました。」

助手として一度は阿蘇の火山観測所へ赴任、桜島との縁も切れかけたが、まもなく桜島の観測を兼任、教授となつて桜島へ戻ってきた。

白いスクーターを駆って、鹿児島市内の自宅から観測所へ通う毎日。「赴任して二年半ほどは観測所に近い桜島町内の官舎に住んでいたんですが、子どもの進学問題な



撮影/水谷 進

どもあつて引つ越しました。ところ

ろが、当時、私の転居話に尾ヒレがつきましてね。所長が桜島を脱出した。大爆発が起こるらしいなんてね。いまは笑い話だが、パニックの恐ろしさを痛感しました。」

観測所は、本年度で第二次噴火予知五カ年研究計画を完了。島内七カ所の中域観測網と、開聞岳、吉松など、県内七カ所の広域観測網の整備を終えた。「所長のワンマンでこれまでやってきたが、一応これで一段落。今後は後継者の育成に力を入れたい」と言う。

「三宅島に続いて、桜島が大噴火ということはありませんか?」
「今のところ、大爆発を起こすような異常なデータは認められませんが、火山学の常識ではこの安全弁が働いている間は大丈夫ですよ。まずは、ひと安心。」

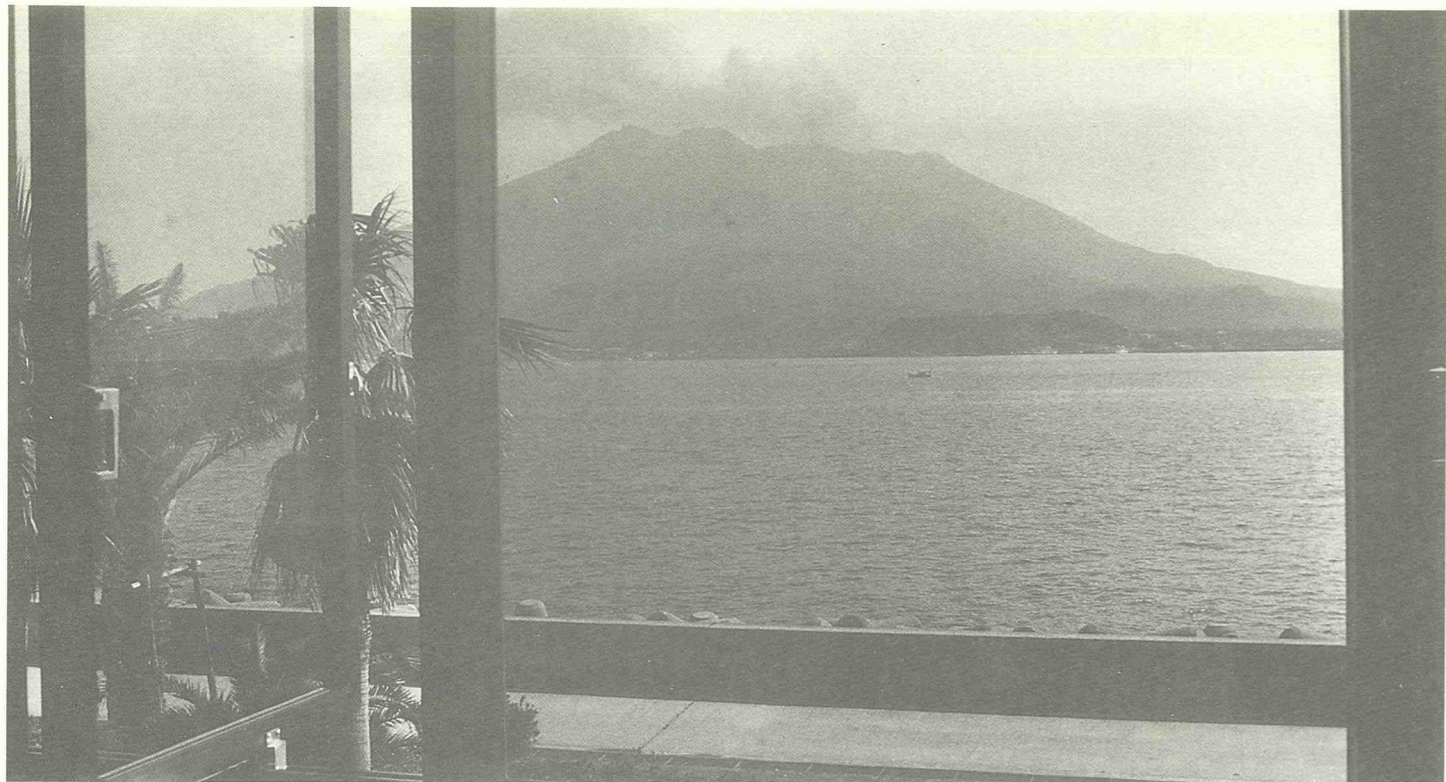
文/安武 秀明

西日本新聞社記者

ぼくらの施設めぐり

福祉コミュニティセンター

——土慶一郎・上妻雅代(清水中1年)



錦江湾に浮かぶ桜島が眼前に



健康が何より(健康相談)



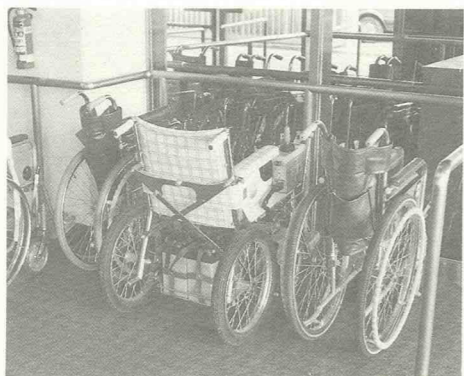
世間話に花が咲く



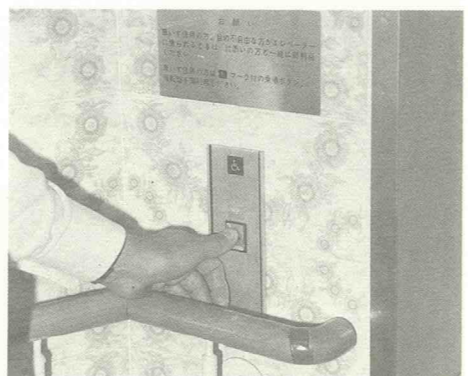
大ホールでは各種大会も開かれる



広く使いやすい作られた身障者用トイレ



入り口には車イスも準備してある



エレベーターにも工夫が

いました。みんな明るい表情で、楽しそうに訓練しているのには驚きました。

二階の休憩室では、ふるあがりらしいお年寄りの人たちがお茶を飲みながら談笑していました。ふろに入ってから、ゆつたりとくつろげるのは楽しいだろうと思います。また、ここのは温泉です。

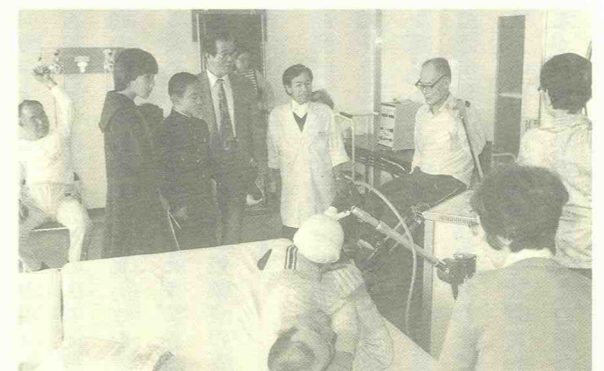
会議室では、大正琴の練習をしているグループがありました。ここでは、このようなグループ活動や教養講座、自主講座も盛んに行われているということです。

特に印象的だったのは、センター全体がお年寄りや体の不自由な人たちが利用しやすいように造られていることです。通路には点字ブロックがあり、手すりには点字のプレートが取り付けられ、階段も幅を広くしてあり、身障者用のトイレやエレベーターも工夫してありました。

この素晴らしい設備の整ったコミュニティセンターをもっと多くのお年寄りや体の不自由な人たちに知ってもらい、利用してほしいと思います。



社会福祉のシンボルとして、4年前に完成



機能回復訓練を見学する土君と上妻さん

私たちは、はじめて祇園之洲にある福祉コミュニティセンターを見学しました。最初、事務局長さんから説明を受けた後、センターの中を案内してもらいました。

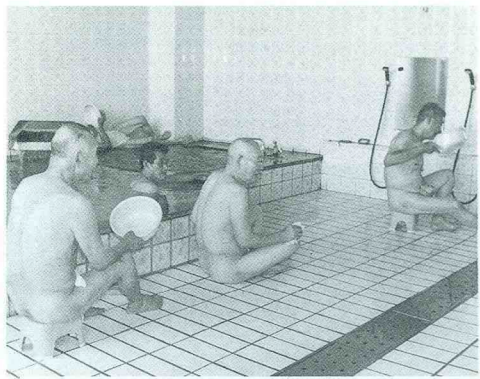
機能回復訓練室では、体の不自由な人たちがいろいろな器具を使ってリハビリテーションに励んで

雄大な桜島を眼前にした祇園之洲埋立地に、福祉コミュニティセンターがオープンしたのは昭和五十四年四月。以来、お年寄りや心身障害者の憩いの場として広く利用されています。

今回は、清水中一年生の土慶一郎君と上妻雅代さんに訪ねてもらいました。



リフトもある福祉バスしあわせ号



温泉で疲れをいやす



ちゃんとしゃべれるよ(言語訓練)



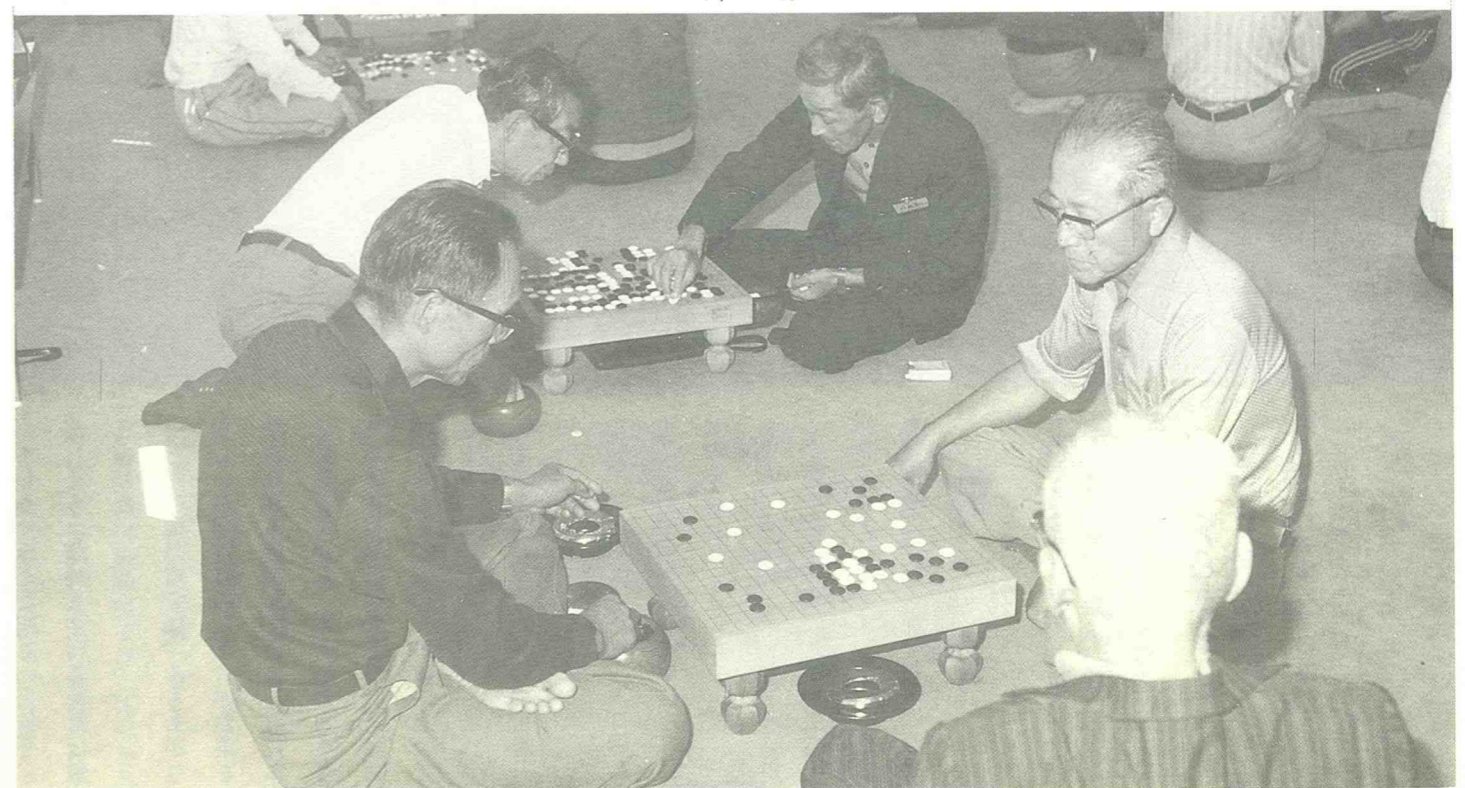
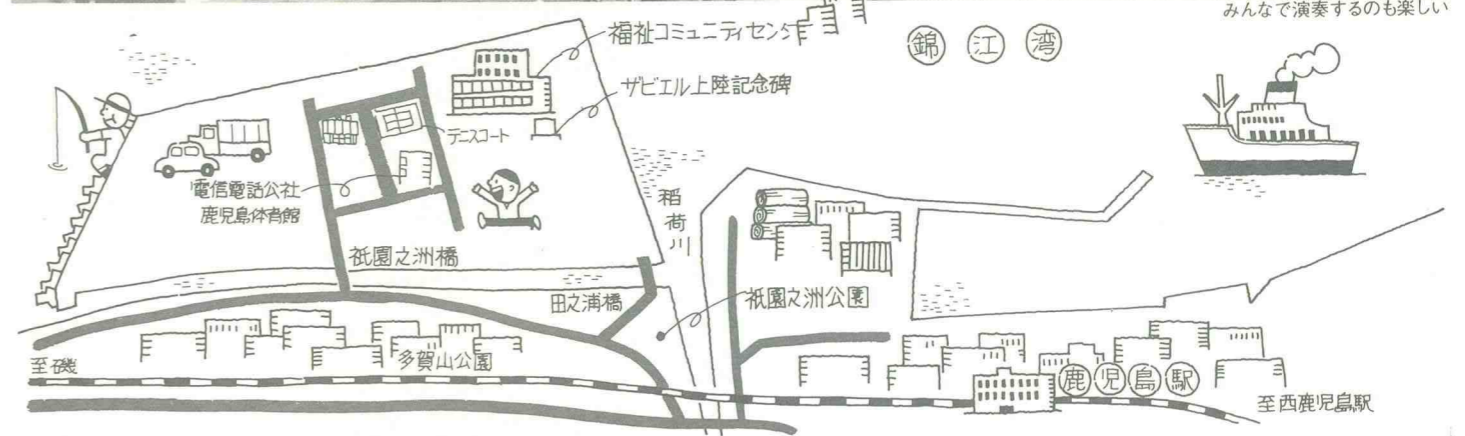
みんなで演奏するのも楽しい



一服いかがですか(自主講座)



上手に指を動かして(創作活動)



ハチリ! 仲間で囲碁大会

昭和36年●

飛んで22年

●昭和58年

空から見た街の表情



下伊敷(日当平付近)

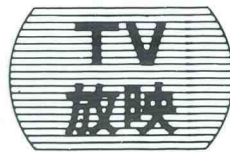
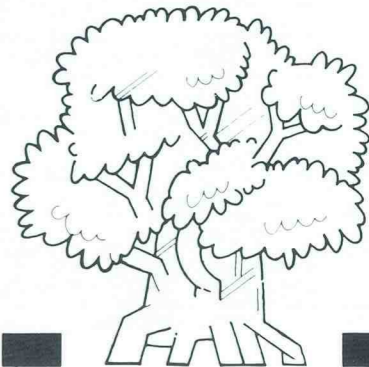
戦前は陸軍の第四十五連隊があり、近くには練兵場もあった。

団地ブームに乗って、伊敷、サツマ、若葉の各団地などが付近の丘や山に上った。玉江小や県立短大など目ぼしい建物は鉄筋化され、その変わりようは目を疑うほどだ。しかし、県立短大のグラウンドだけは昔の姿をとどめている。

日当平の市営住宅は、今、四カ年計画でスマートな五階建てに立て替えが進められており、昭和六十一年春には新しいビルの街に生まれ変わる。

撮影/水谷進

市民のひろば



「市民のひろば」は、MBCから放送されます。放送日時は、毎月第三日曜日を除く、日曜日の午前八時から十五分間。ただし、第四日曜日は三十分間放送。

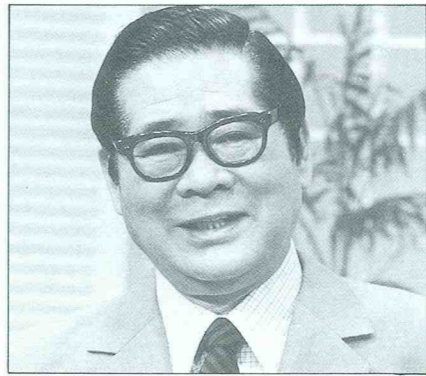
明日にひらく鹿児島

長い不況下にあった国内景気も、ようやく回復に向かつて動き始めているようです。

大きく変貌しようとする鹿児島の地域経済について、また新しい時代に向けての街づくりについて、市長とゲストが語り合います。活力のある未来志向の鹿児島市の将来について、熱っぽいお話が続きました。

出席者(敬称略)

- 鹿児島経済同友会副代表幹事 川村 洋
- 鹿児島市長 山之内 安秀
- 鹿児島経済大学教授 高橋 良宣
- 司会 高島 康子



市長

えますと、第三次産業が八十（注）近くになって完全に消費都市なんですが、まだ消費が十分に回復してないということなど、いろいろな経済の変化にうまく反応するよな経済構造でなくなってきたり、刺激を受けにくくなってきているということですね。

ところで、昭和四十年代の鹿児島（注）の経済というのは、谷山臨海部の工業地帯が牽引車になったわけですが、五十年代にそういうものがないんですね。これから先、どのような牽引車を、この鹿児島の経済の中に組み込むかというのが一番重要なことじゃないかと思いませんか。

市長 なるほど、私も四十年代、

とじゃないでしょうか。

情報があふれる

未来志向の街

高島 高橋さんは、鹿児島市をどのような都市と受けとめておられますか。

高橋 鹿児島市は県都ですし、ど（注）う小さく見ても南九州の中心都市ですから、その中で、どのような役割を果たしていかなければならないかということを考えることが重要だと思えます。

これから伸びる都市の条件は何かと考えてみますと、三つあると思うんです。国際化の進展の中で、一つには国際空港を持っていること、二番目には国際港湾機能を持つていること、そして、三番目が情報集積が充分にあるかということですね。

そうすると、鹿児島は伸びる条件を備えているといえる訳で、それを具体的にどう展開するかということなんです。特に、情報集積という都市機能をどう充実していくかということが非常に大切なポイントだと思いますね。

市長 そうですね、一口に情報と

えば、何をすればもうかるか、どうすれば企業が成立するか、というような前向きな選択が得られるということですね。

昔の街というのは、人が集まり物が集中するのが街だった。ところが、最近では情報が集まるのが街だということとして、情報の少ない街というのは、未来志向の街じゃないと、そう言っていんじゃないでしょうか。

高島 さて、川村さんはどのようなお考えですか…。



高島さん

若者を引きつける

魅力のある街

川村 まず、第一に情報の集積というお話でしたけれども、もっと具体的に言いますと、若者たちを引きつける魅力のある街づくりということじゃないでしょうか。



五十年代と県政や市政にタッチしてまいりましてね、その間、ずい分、経済というものが変化してきた、質的転換をしたと思うんですよ。そういうものに対応していく準備が必要だということですね。

高島 その辺のところ、川村さんはいかがですか…。

川村 お話のように、経済の急速な変化の中で、過去の経験がほとんど役に立たなくなってきた時代に来ているというのが実感ですね。

その中で、注目を集めているテクノポリス構想ですが、電子産業IC産業等の集積というのは、鹿児島の産業構造の高度化という面で、引っぱるテコになっていくだろうと思います。

現に、候補地である国分などは、鹿児島に次ぐ活気のある街になってきましたね。そして、自然にその周辺の産業も、二次産業への依存というのがより高まるでしょうし、また、若い人もあふれてくるということで、鹿児島市への間接的効果、波及効果というのは、かなり大きいのではないかと思います。

ですから、我々としても、それ

若い人だけとは限りませんが、人は楽しさを求めて街にやってくるわけです。そのような活気のある楽しい街にするためには、一番身近な例ですけれども、都市の顔といわれる中心商店街が魅力を増さないといけない。

そのためには、商業の近代化というのが必要ですし、消費者の動向からいいますと以前は買い物を中心だったのが、今では物から心を求めて、ゆとりを求めて人びとがやってくるわけで、それに対応するために、やすらぎのスペースとか、レストラン、喫茶店といったようなものがある程度、システム的に整ってこなくてはいけないと思うわけです。



川村さん

市長 そうですね。本来、都市というものは人間が集まって、その利益と幸せを追求する所ですから、

単に、街が経済の大きな渦であるだけではなく、人間の心のふれあいの場だということも忘れてはいけないことだと思います。

高島 ところで、鹿児島市の将来について市長さんご自身は、どのようにお考えですか。

市長 私は、鹿児島市の今日のこのような発展の基礎は終戦後の都市整備にあると思うんです。そして、それに続く臨海部、空港跡地の大規模な開発ですね。

しかし、時代の流れの中で、街自体の老朽化も進んできた。都市というのは、生流転していくものでして、ある限界に達すると、その再開発がどうしても必要になってきます。新しいこれからの市民生活をどのように豊かな活力あるものにするか、楽しいものにするかということを考える時に、都市の再開発は不可欠の要素だと思います。

それから、現在でも鹿児島市を中心とした生活圏の人口は八十万から百万人あるわけでして、そのような近隣市町村との共存共栄といえますか、市の持つ活力を周辺まで及ぼしていく、県都性を高めていくということも大切なことです。

そして、テクノポリスの母都市としての機能を十分に高めるといふことですね。これは、国分・隼人だけの問題ではなくて、県全体に大きな影響を与える問題ですし、県経済の中心都市として今後とも一体となつて、努力していかなくてはならないことだと考えます。

新しい時代への選択は

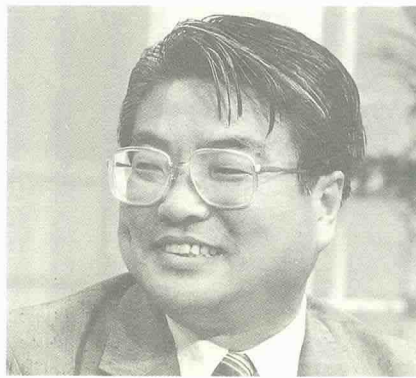
ロングサイトで

高島 これからの街づくりの方向性ということでお話をいただいてもまいりましたが、それをどういった形で実現していくかということになると思いますが…。

市長 そうですね。非常に難しい問題ですが、今から迎える新しい時代に向かって何をすべきかという選択は、相当長い目で、ロングサイトにみておくべきだと考えますし、また、必要なものは、その時々的確に手を打っておかなくてはならないと思うのです。そのような観点から、お二方のご意見をお聞かせいただきたいと思えます。

高橋 もう、これだけ大きくなつた街を整備するというのは、目先の議論だけでは無理でして、長期的な展望に立つて、新しい都市の

システムというものを研究していく。便利な都市、楽しい街というのを創りだすために、どのような再開発をしていくか、具体的に考えていくというのがまず一番だと思います。これは、一つの建物だけをどうしますか、というのではダメで、街全体で考えていくということが必要なんです。それに、行政だけにたよるのではなく、民間の方もそのためには協力していくことが最も強調されるべきことだと思います。



高橋さん

川村 私も、これからのような社会がくるのだらうということを考えて、それを先取りして街をつくり変えていくということが肝心だと思えます。鹿児島は地価が非常に高いわけですから、再開発を利用して土地の高度利用を図って

いくということは大切なことですね。また、周辺の市町村との関係という面から基幹道路の整備、国鉄の複線化、電車化による通勤圏の拡大ということも基本的な課題だと思います。

それと、活気ある街づくりという意味で、新しい祭りや、楽しい催し物などを創造していくというのも、おもしろいんじゃないでしょうか。

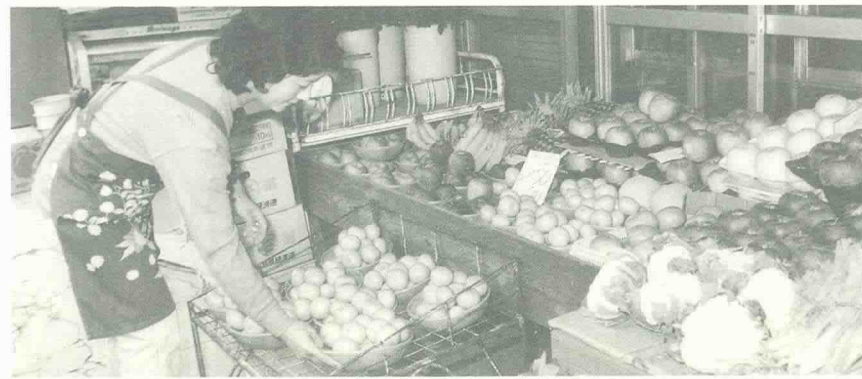
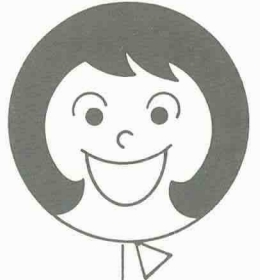
高島 市長さん、お二方のお話を伺っていかがですか、最後にお願ひします。

市長 今日、現状を踏まえた内容のあるご意見をいただきました大変ありがたいと思います。

私は、鹿児島市は地域的にも、歴史的にも、革命的なエネルギーと未来に向かってのポテンシャルティを持っていると思つています。

そして、市民の皆さまとともに世界に自慢できる素晴らしい街、そこに住むことの幸せを充分味わえる街にしてみたいと心から思っています。今後とも、よろしくお願ひいたします。

高島 皆さん、今日はどうもありがとうございました。

奥様

こんにちは……

青果市場売買参加者 佐藤 ヤス子さん

朝七時三十分、風が冷たい。しかし、青果市場のせり場には活気があふれ、威勢のいいかけ声とぶ。

「店の手伝いはしてましたけど、代

わってこの仕事がつとまるものか
ずいぶん悩みました」。今では、

すっかりと売買参加者記章七二四

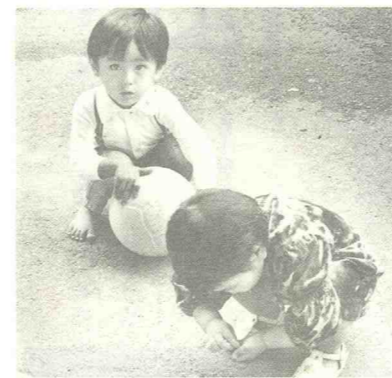
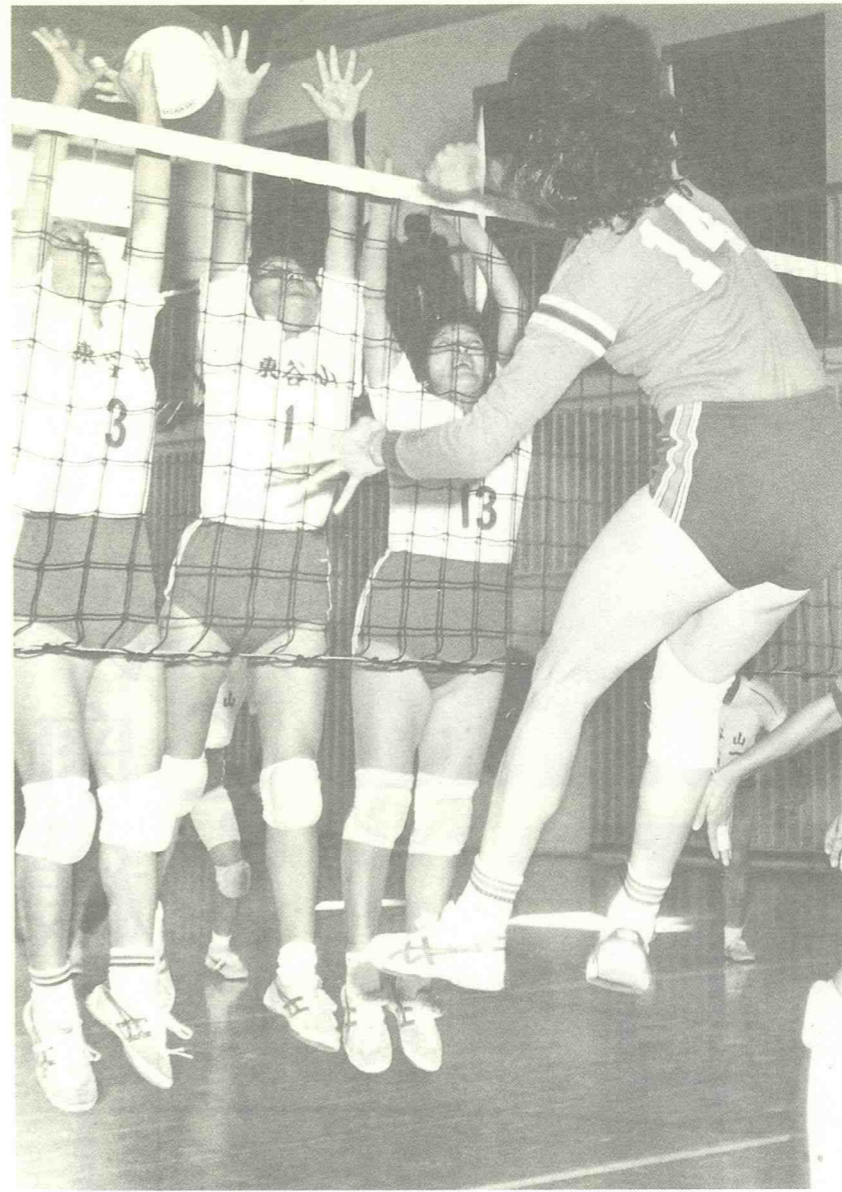
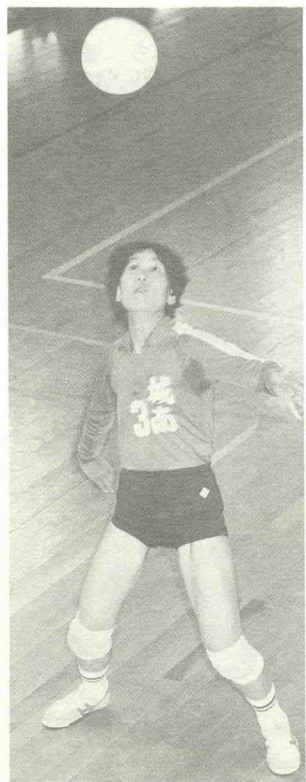
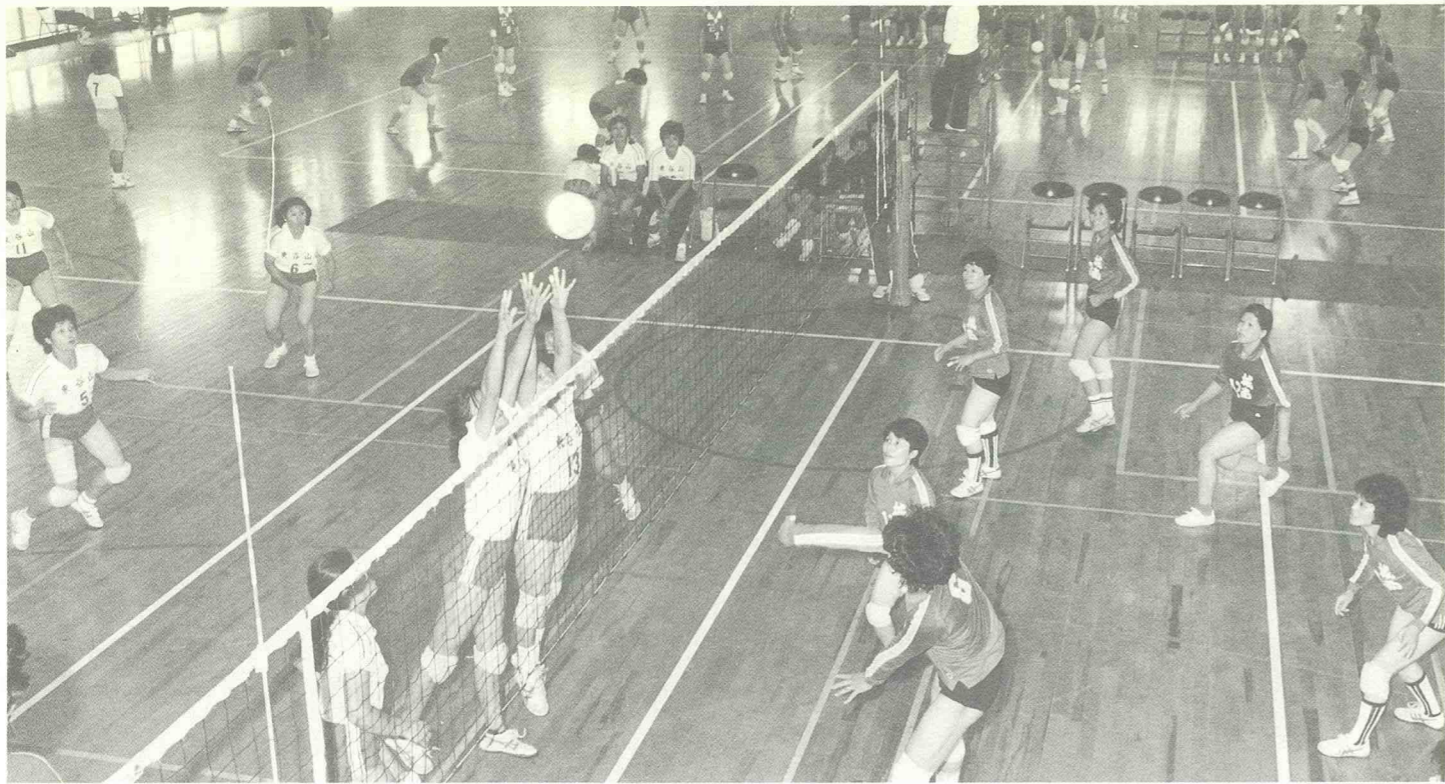
番を守り続けている。七年前、東
開町に市民の胃袋を預かる——青

果市場が新設移転した時、初めて
せりに参加、市場とともに今日ま
で歩んできた。

野菜、果物は自分の店で売るだ
けでなく、食堂、ケーキ屋などか
ら注文を受けて納める。信用第一
なので、質と量、それに納める時
間に気を使う。「せりが始まると緊
張します」と……。

大恋愛の末、二十一歳で結婚。
「のんきな主人なんです。子供た
ちも自分のことは自分で進んでし
ます。母さんは忙しいんだと、割
り切ってるみたい。それに、主人
よりも義母さんと仲が良くて、一
度もケンカしたことがないんです
よ」。

野菜は家庭の食卓にのぼるまで
には、いろいろな人の手を経てい
る。「深ネギが嫌い」なんて言うて
はいけない。なべ物のおいしい季
節。新鮮なお野菜をどうぞ！



あなたの
フォトサロン

ママさん、大ハッスル

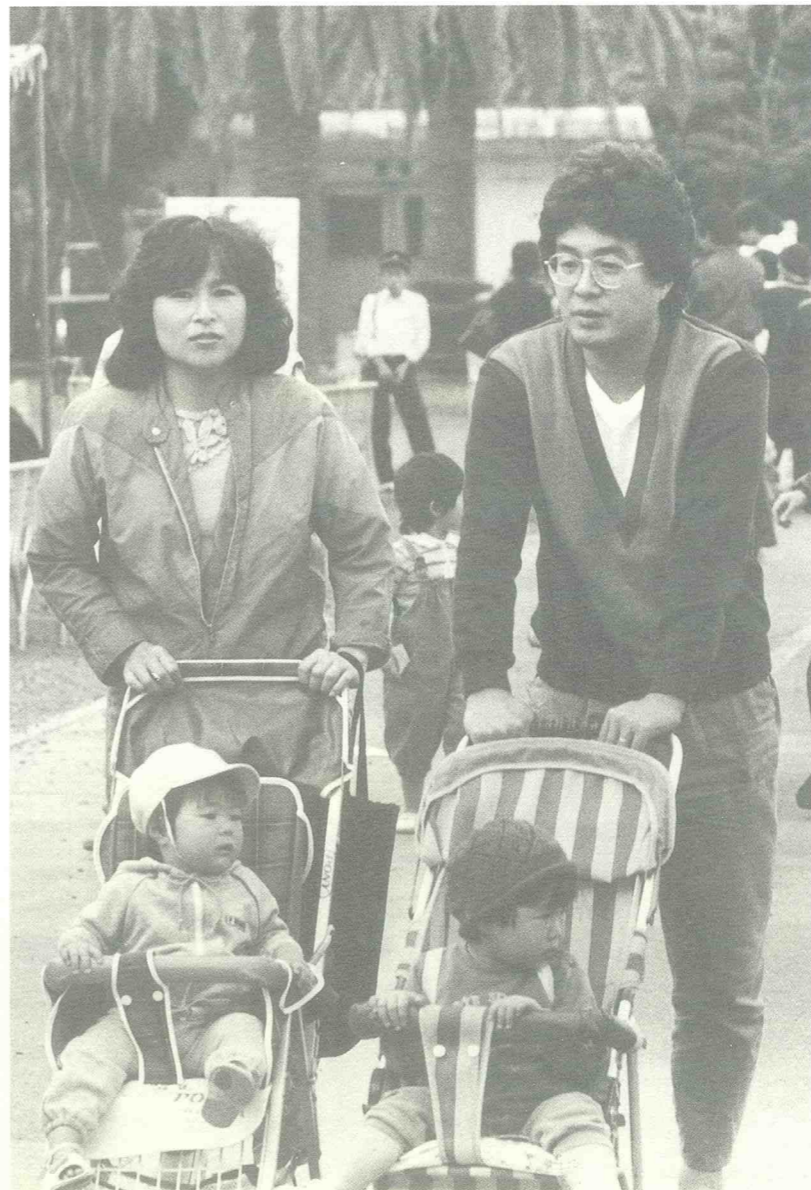
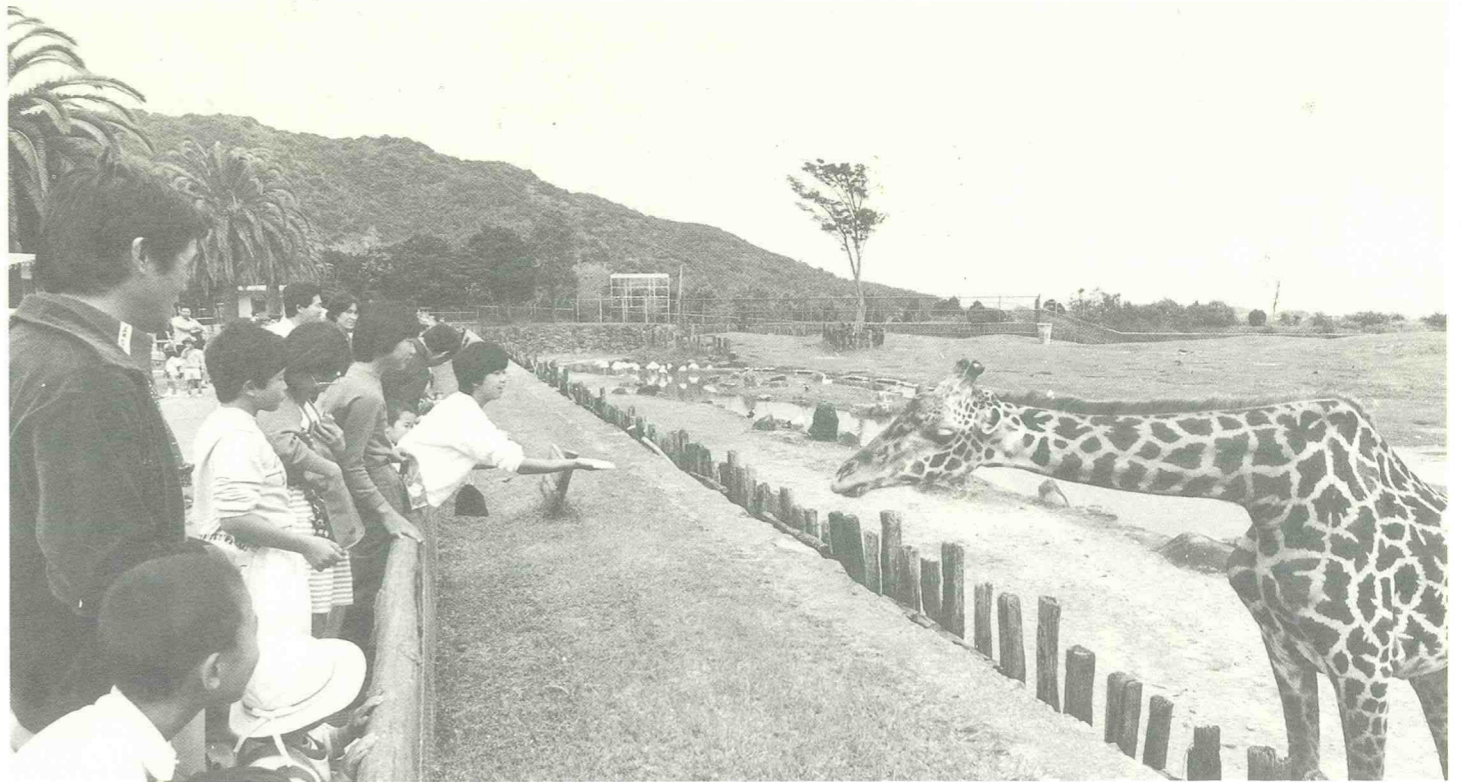
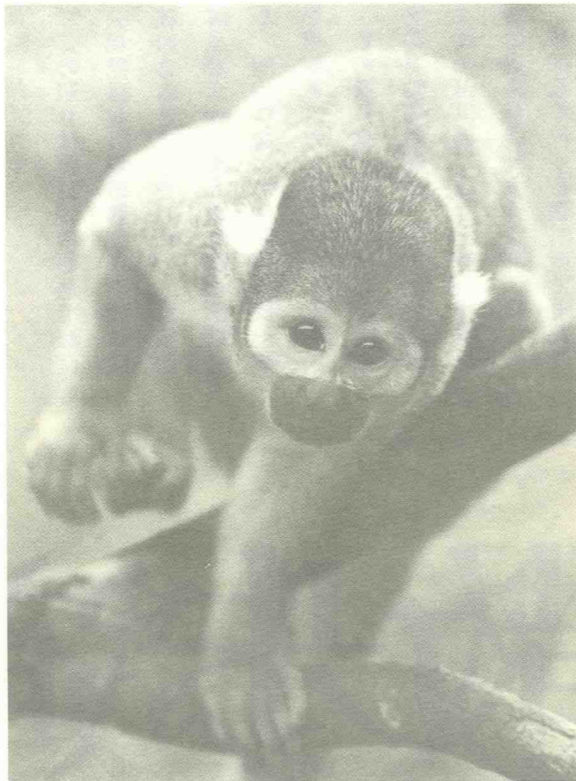
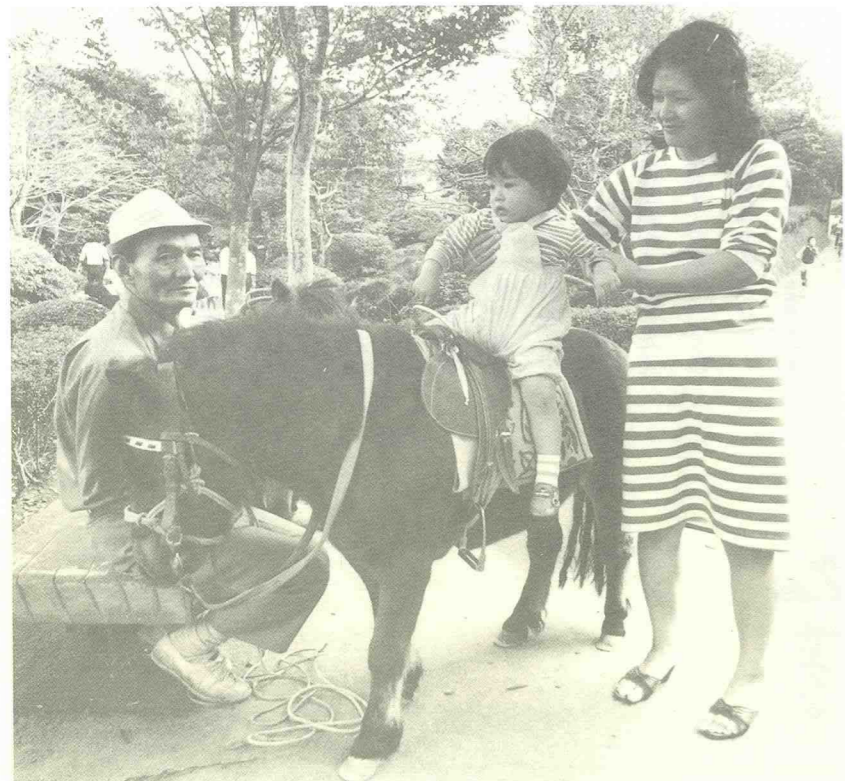
家庭婦人バレーボール大会

白いボールが宙に浮く。プレーヤーの視線が集まる。「バシッ」と強い音。ハッと息をのむ。再び、ボールが上がる。スパイク。懸命にボールに飛び込み、拾おうとする。しかし、「ピイッ」とホイッスル。歓声が一方のコートに広がる。チームメイトが喜び、観戦している。

た子供たち、男たちが拍手を送る。すがすがしい光景だ。それにしても、彼女たちの競う姿は闘志にあふれている。たくましいという言葉で形容したいほどだ。私は、そのファイトに盛大な拍手を送りたい。

写真と文/桑代 修身

あなたの
フォトサロン



平川動物公園

動物園は都会のオアシスです。平川動物公園では、「秋の動物公園まつり」が行われ、大勢の家族連れでにぎわっていました。

あちこちで繰り広げられる動物たちとの交歓風景は、ここならではのものです。大人から子供まで動物の一挙手一投足を目を奪われ、無邪気にはしゃぐ姿は、なんともほほえましいものです。でも、子供

たちに終日、追い回される「こどもどうぶつえん」のうさぎなどにとっては受難のときだったようです。ところで、園内に植えられたユーカリ、生長は目覚ましく、通りすがりのだれもが足を止め、コアラの話をしきり。早く平川に来て欲しいものです。

写真と文/湯田 博夫



帯迫く雀ヶ宮

植木の町と

兵六夢物語

園芸研究家 安藤 泰

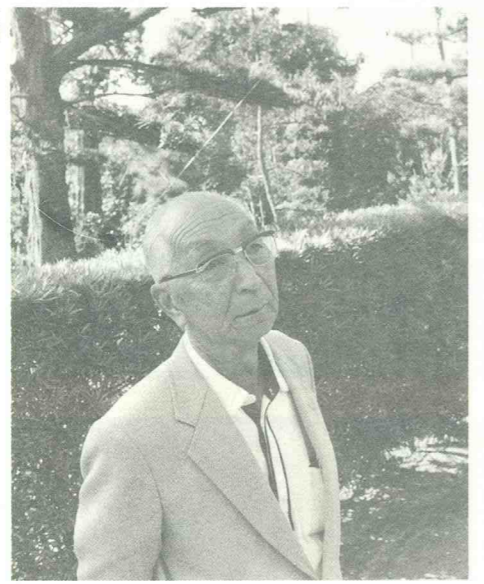
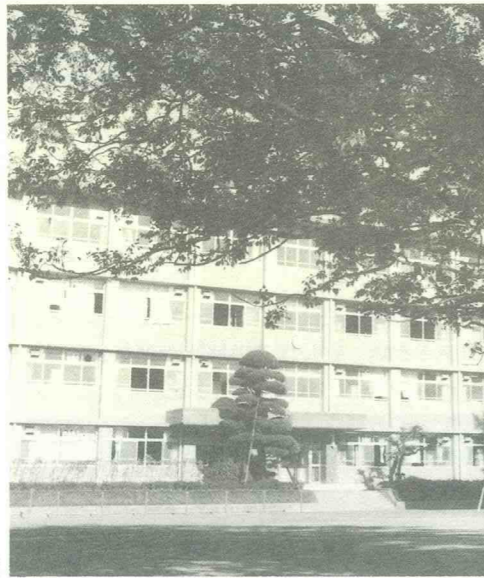
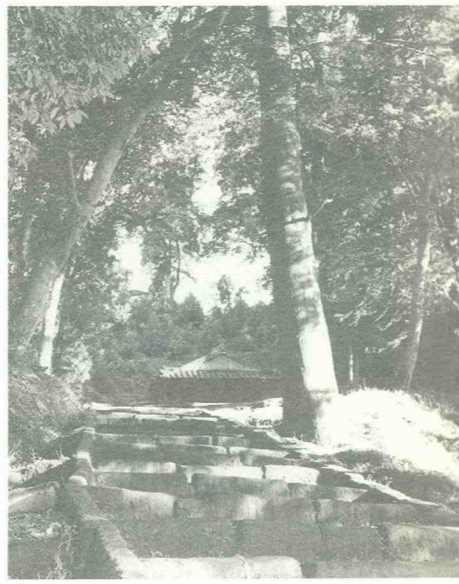
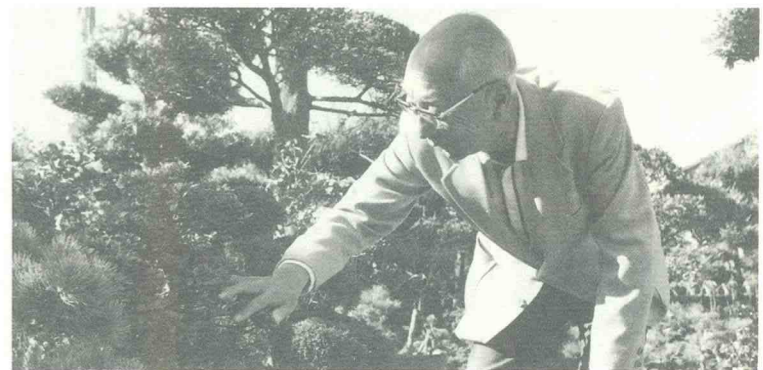
ほら、ここが帯迫の鎮守神社ですね。今も祭りがありますよ。

この石段を降りたところが御石様の井戸(泉)の跡なんです。昔はまわりを石で囲んであつてね。少し、くだっていく感じだったな。付近の人たちの生命の水だったんです。水量も豊かで。私も、くみに来たことがありますよ。

石は、安産や武芸の上達に靈驗あらたかと言っていました。

この辺りは吉野の中心地だね。公民館は村役場の跡、小学校は由緒のあるところでした。二百年前に斉彬公がつくられた御薬園跡だし、明治になってからは郷校や私学校があつた。

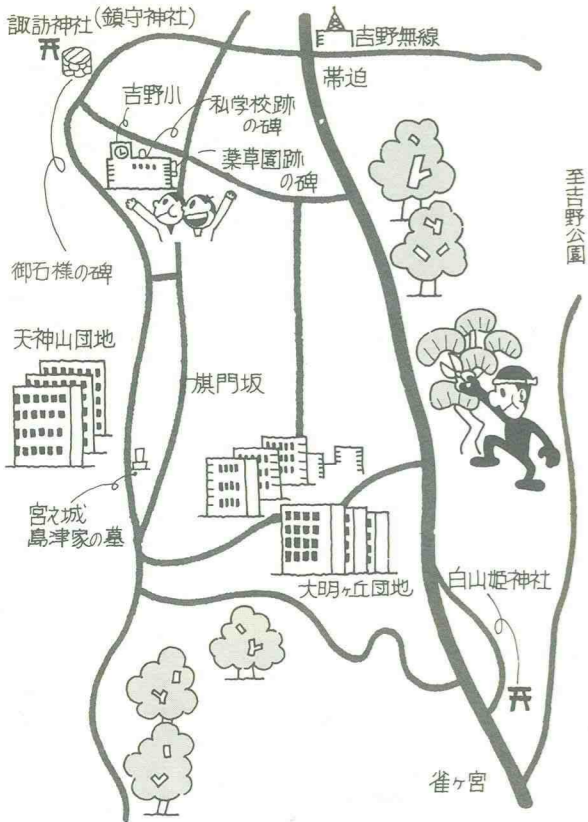
この通りは、昔から立派な門構えのある屋敷町で、その名残があるでしょ、ね。あつ、花畑できれいな花を摘んでますよ。しばらく行くと旗門坂です昔、



取材メモ

昭和四十三年まで鹿児島東高校教諭。鹿児島熱帯植物園長を経て、梶島津観光磯庭園自然植物園長。かたわら、MBC学園、鴨池公民館の園芸講座を受け持ち、磯庭園の園芸教室も主宰している。

植物一筋の若々しい七十三歳。五年間で優に六千キロを歩く足達者。気さくさと気品を合わせもつ人柄に敬服。



この道は実方、帯迫を経て豊富に通じる吉野のメイン道路だね。脇の溝川には石がきちんと敷きつめてあつたなあ。でも、道は木のトンネルで、夜は怖いくらい。大石兵六がキツネにいじめぬかれたはずですよ。馬フンの饅頭を食わされたり、肥えだめのふろに入られたりして...

この向こうが島津さんの持ち山で、山すそに宮之城島津家の墓所があるんですよ。さすがに、植木屋さんの町って感じでしょ。昔は荷車が通れるくらいなの、あんな狭い道だった。木市に出す時など、難儀されたでしょうね。

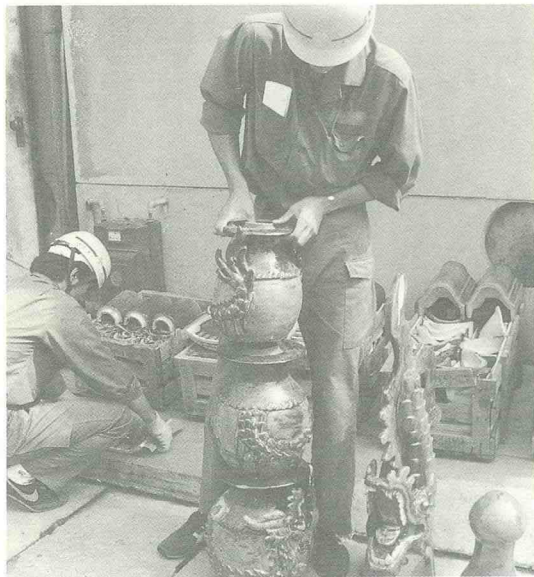
庭は皆、手入れが行き届いているけど、街のお店のショーウィンドーの商品と同じで、買い手があれば売る木や石なんです。「よかウメじゃ、ヒトツバも...」こ

んマツは葉を落として枝をすかさすと、よか格好になつじやろ。そう、花や木とのつきあいも五十年になります。実際に手がけてないと、人前で話すのがつらいし、話に力がありませんね。(談)

わたしの散歩道

9月16日・友好都市長沙市から瑠璃瓦(るりがわら)

この瓦は長沙市の岳麓山にある名所、愛晚亭を鹿児島市に再現するための材料。愛晚亭の完成は両市の友好のシンボルとなります。



9月9日・コート西オーストラリア州元首相夫妻、表敬訪問。

西オーストラリア州は姉妹都市パース市のある州。コート元首相は「鹿児島市民がパース市を訪れ、友好が広がることを期待します」と語りました。



9月15日・鹿児島市工芸品コンクール展

「くらしに生きる用と美」をテーマに開かれたこのコンクールも今年で8回目。作る人と使う人のふれ合いの場は大勢の市民でにぎわいました。

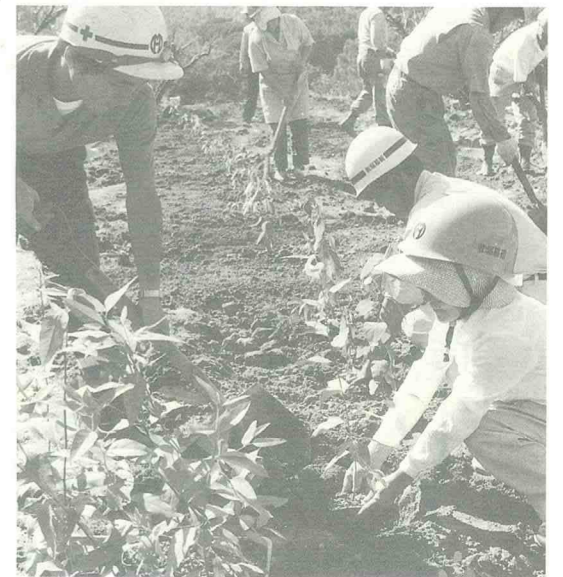


10月15日・市民芸能祭

民俗芸能保存団体、民謡団体など7団体が参加。「平川の馬方踊り」や「中山の虚無僧踊り」などが披露され、約600人の観客をわかせました。

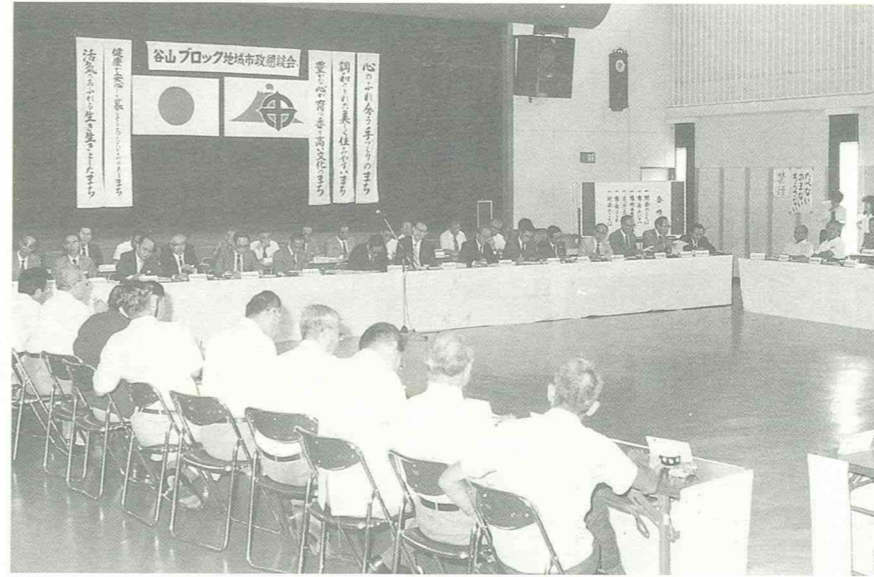
10月19日・錦江湾公園(仮称)にユーカリ植栽

この日、植栽されたユーカリの苗は5000本。同公園には最終的に9種類 8200本が植栽され、将来はユーカリの森が誕生します。



10月21日・谷山ブロック地域市政懇談会

町内会の代表、商工会、市関係者など約70人が出席。市長は谷山地域の副都心構想などに触れながらあいさつ。その後、意見交換を行いました。



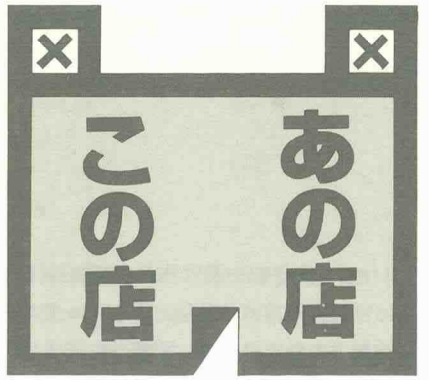
11月3日・おはら祭

今年は196連、約18,000人の踊り手が参加。秋晴れの祭り日和に恵まれ、「おはら祭」と「ハンヤ節」の軽快なリズムに乗って踊りまわりました。



11月7日・中国帰国者日本語講座がスタート

27人の受講生を前に森山市議会議長は「困難を克服して1日も早く日本の社会へ溶け込んでください」と激励。さっそく、この日から会話のレッスン。



中村屋楽器店

山之口町

「おはら祭で踊ったんですが、三味線、太鼓の音が気になりましたね」と開口一番、ご主人。

中村屋楽器店は創業五十年余りで、三味線、琴など、和楽器専門の市内唯一の店である。

三味線の音色の特徴は、さびた音色。それは胴皮の張り具合いで決まる。猫の皮を張る作業は細かい注意を払い、丹念そのものだ。

完成した三味線は、ご主人が一本ずつ調律、胴皮の純白さと棹の光がまぶしい。仕事場に響くその音は、辺りの喧騒を忘れさせる。

「良い材料、良い仕事で、良い音が出ます」と、きつぱり。二代目として十年、音づくり職人の目と耳の確かさには驚かされる。



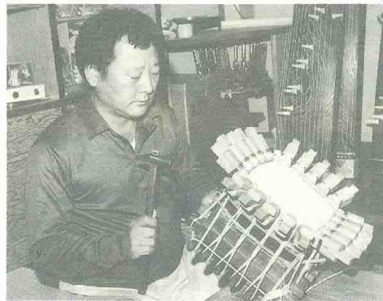
製造・修理と市内外から注文がくる



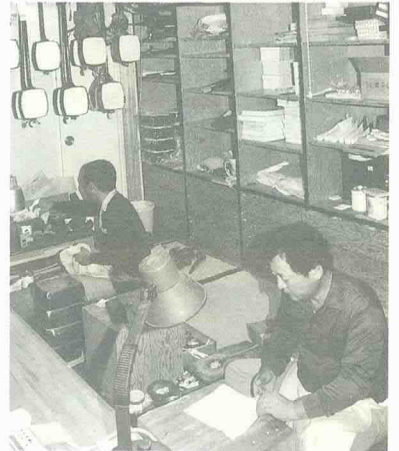
棹・胴木の材料は東南アジアから輸入



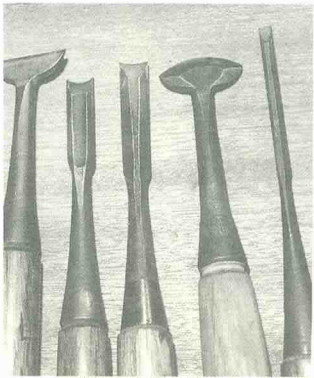
三味線が日本に入って来たのは16世紀半ば



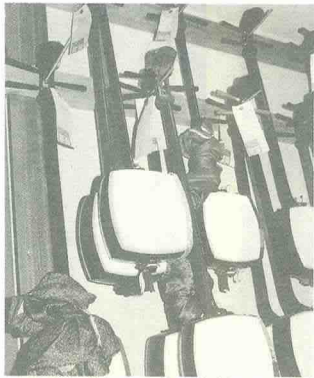
猫の皮の三味線が一番いい音色を出す



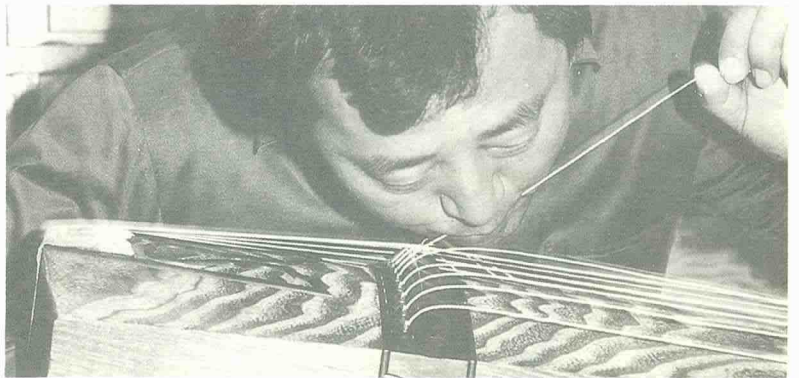
胴・棹と分業で作業は進められる



三味線製造用の特殊なノミ各種



三味線は太棹・中棹・細棹の三種類



ご主人は父の下で修業を積んだ

編集後記

▼「市民フォト鹿見島」第15号をお届けします。

▼十二月といえば年賀状書き。

「あの人は今ごろ、どうしているかなー」思いをめぐらせながら筆を走らせる楽しみ。ちよつとした行き違いで疎遠になった友と仲直りするチャンでも。除夜の鐘を聞きながら年賀状を書き終える仕舞いの悪さ。百八の鐘が賀状に染みている 正司

▼第15号では天文館界わいを特集しました。市内随一の繁華街。

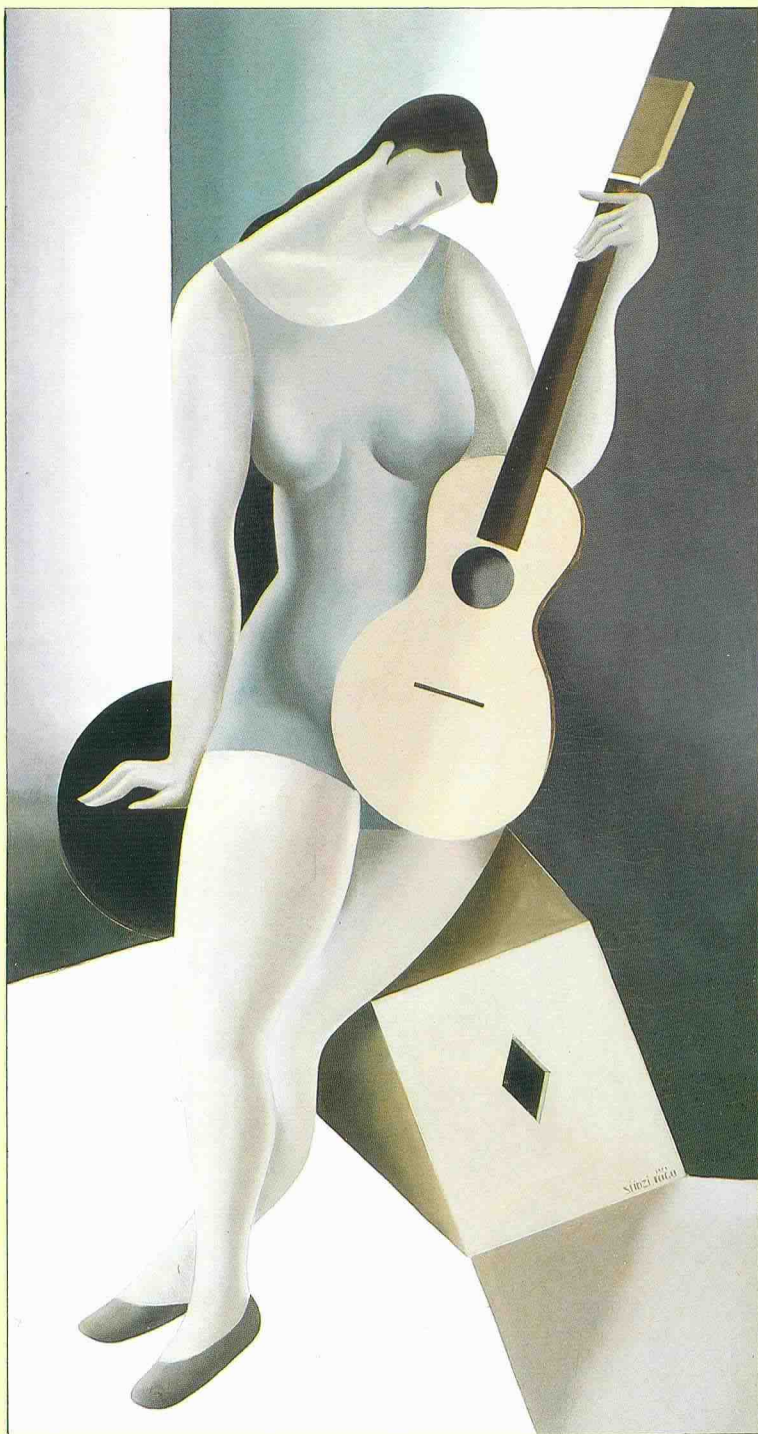
若者たちのファッションが生きる街、そして恋人たちの街。そこには憩いがあり、家族の団らんがあり、ショッピングがあります。楽しみもあれば悲しみも。時には、ママさんパトロールやおまわりさんの目が光ります。不夜城のような天文館に夜の寂ばくが訪れるころ、裏方さんの登場。ごみの山を手際良く片付けていきます。舞台裏で天文館を支えている人たちがおられることを忘れたくないものです。



市立美術館

少女

東郷青児



〔作者〕一八九七年(明治三十年)、鹿兒島市に生まれる。本名鉄春。大正五年、有島生馬と知りあい、第三回二科展初入選で二科賞を受賞、注目された。

大正十年、フランスに留学。未
来派、キュビズム、シュールレ
アリズムの洗礼を受ける。昭和三

年帰国後は耽美的、象徴主義的
女性像で大衆的人氣を得る一方、戦
後の二科を再建、そのリーダーと
して君臨した。

昭和三十二年、芸術院賞を受賞、
同三十五年日本芸術院会員に。同
五十三年、八十一歳で死去。文化
功労者として顕彰された。



市立美術館館長 四蔵典夫

〔解説〕一九二八年(昭和三年)、
フランス留学から帰り、第十五回
二科展に「サルタンバンク」など滞
欧作品二十三点を特別出品、第一
回昭和洋画奨励賞を得た。

翌昭和四年の二科展出品三点の
うちの一点がこの「少女」。昭和五
十六年講談社出版の東郷青児画集
では、ギター(ポーズ・サンチマン
タル)となっており、この方が原画
の雰囲気をよく表している。

名作の評判高い「サルタンバンク」
と似て、女性とギターの描き出す
曲線と背景の方形との組み合わせ
が立体派風(キュビック)な画面
構成をもちながら、通俗に陥らず
むしろ、古典につながる具象画と
しての優れた完成度を示す作品で
ある。曲線と直線のリズムがグレ
ーがかつた洗練された色彩と相ま
つて、哀愁感漂う佳品に仕上げてい
る。

1日1円で大きな保障

万一の事故に備えて、家族ぐるみで
加入しましょう。

1日1円で100万円の保障。

●申し込み先

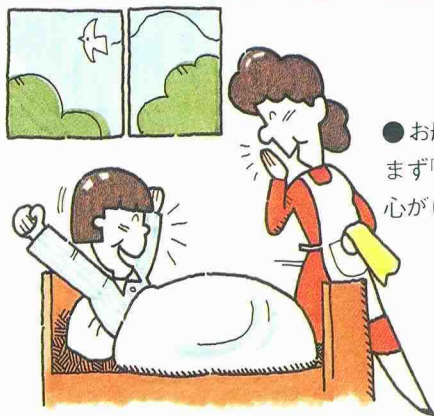
市役所本館玄関横・谷山支所・伊敷
支所・東桜島支所・吉野出張所



バイクは正しい乗り方で

鹿児島市交通災害共済

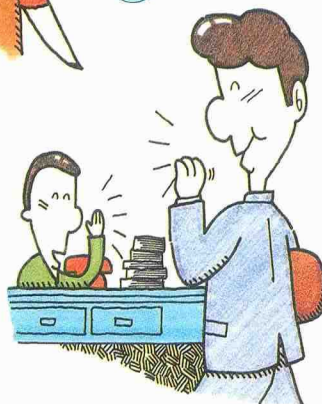
笑顔と笑顔で交わそう、あいさつを。



●お母さん! お子さんが起きたら、
まず「おはよう」のあいさつを
心がけてください。



●お父さん! 家路を急ぐときにも
お隣に「こんばんは」
必ず返ります「おつかれさま」のあいさつ。



●職場での「おはようございます」
人間関係もスムーズ、
仕事もスムーズ。

市民あいさつ運動